



てんかんと妊娠



てんかんは、脳に障害や傷(きず)がある場合、突然神経細胞に電気的な興奮が生じ、けいれんなどの発作を繰り返して起こす慢性の病気です。てんかんは人口の約1%を占める決して珍しくない身近な病気で、あらゆる年齢層でおこりえます。てんかん患者さんは長期にわたり抗てんかん薬を服用することになりますので、妊娠・出産はてんかんの大きな関心事であり、悩みでもあります。

まず、てんかんだからといって妊娠をあきらめる必要はありません。私の経験でも多くの女性が抗てんかん薬を服用してきちんと出産されています。少子化の現代、4人の子宝に恵まれた患者さんがおられました。また、てんかんがこどもに遺伝すると考える方がおられますが、基本的に遺伝性の病気ではありませんので誤解のないようにしてください。

抗てんかん薬を長期に服用していると、妊娠したとき赤ちゃんに影響がでないかと心配になります。実際のところ抗てんかん薬を服薬しない場合に比べて、わずかながら(3-5%)奇形の発生頻度が増加すると報告されています。また、薬が赤ちゃんに影響を与えるのは妊娠初期(12週まで)とされ、妊娠と気がついた時にはすでに奇形の有無は決まっていますといえます。奇形の発生を防ぐためには、妊娠前から奇形の発生を抑える葉酸(ビタミンB群の一種)を服用する、奇形発生率の低い薬剤に変更するなどの準備が必要になります。将来、赤ちゃんを望まれる場合は、事前に主治医(場合によっては、てんかん専門医)に相談して計画的な妊娠を心がけてください。

妊娠から出産にかけて一番大事なことは、発作を起こさないようにすることです。調査によると、16%の女性で妊娠した後に発作回数が増加したとの報告があります。妊娠中に自己判断で薬を止めたり減量したりすると、けいれん発作が頻回に起こり流産につながる恐れがあります。医師の指示に従い、きちんと薬を服用し、睡眠不足にならないように気をつけてください。また一般にてんかんのある女性の90%以上が経膈分娩で出産されています。現代の医療技術は進歩していますので、産科医の指示に従えば安全に赤ちゃんを授かることができます。

てんかん発作のある女性が出産する場合、主治医と産科医との連携が大切です。当院ではてんかんセンターと総合周産期母子医療センターが連携して、てんかんのある女性が、安心して服薬しながら妊娠・出産・産後の育児ができるよう、診療体制を整えていますので、興味のある方は是非ご相談ください。

てんかんセンター(脳神経外科) てんかん専門医・指導医 藤井 正美

「おぎゃー!!!」 in 助産院 Sun

助産院でお産ができる方は、
 ※妊娠経過が正常な経産婦さんで、医師より助産院でのお産が可能と言われた方
 ※ご本人とご家族が、助産院でのお産を希望されている方
 ※当病院の産科外来を受診されている方です。

院内助産院でお産をされたお母さんにお話を伺いました。今号は、今年の12月に出産された裕昇くんのお母さんです。

現在の心境をお聞かせ下さい!

1人目が早産だったので、正産期になるまで不安でしたが、無事産まれてきてくれて良かったです。お姉ちゃんたちの発表会の次の日に産まれてきてくれた親孝行の赤ちゃんは、抱っこ大好きの甘えん坊で、お姉ちゃんたちから熱愛されています。そのような姿が可愛くてたまりません。



「2人目に続いて3人目も助産院で出産しよう!」と思われた理由は?

助産院では決まった体勢というものがないので、ギリギリまで自分の楽な姿勢を探しながら過ごし、そのまま出産する事ができました。会陰の切開がなく、2人目の出産時もゆっくりお産を進めてくださったため裂けるということもなかったので、産後すぐに普通に座れることに感動して、助産院を希望しました。

ご家族の反応は?

【ご主人より】
 初めて陣痛からの出産で不安もあったが、上の子2人とそろって迎えることができ良かったです。

【お姉ちゃん(当時3才2ヶ月)】
 うちで応援してくれました。産まれた次の日に保育園の先生に、「赤ちゃん産まれたよー」と報告していたそうです。



「助産院で出産を!」と検討中の皆さんへ、メッセージをお願いします。

助産師さんは親身になって話を聞いて下さるので産前も産後も気軽に相談しやすいです。出産時、まだ余裕がある時は家族の時間を過ごすためにたまに声をかける程度で、お産が近くなると付きっきりでサポートして下さるので、安心してお産にのぞむことができ、おすすめです。



「裕昇 ゆうしょう」

「夢や目標に勢いよく向かってもらいたい。」
 「毎日必ず太陽が昇るように何事にも前向きに取り組み、何度でも立ち上がる強い心を持ってほしい。」という願いを込めました。

ゆうしょう 裕昇くん
 平成30年12月16日 生まれ

「いざ、お産!」から過ごされてみていかがでしたか?

初めて陣痛からのお産だったので、どの程度で病院に連絡していいかわかりませんでした。我慢できない程ではないが、間隔が10分以内だったので連絡したところ、健診して不安だろうからということで、そのまま入院としていただきました。早めに行っていたので、子どもたちがその場や助産師さんに慣れる余裕がありました。そろそろ辛くなってきた頃に、助産師さんが来て、腰を押ししたり、さすったりアドバイスをくださって、とても心強かったです。子どもたちが、赤ちゃんの産まれてくる所を真剣に見ているのが印象的でした。



【お姉ちゃん(当時1才5ヶ月)】

産まれる頃に部屋に来て、ギューっと私を抱きしめて応援してくれました。今では泣いていたら教えてくれたり、オムツを持ってきてくれたりとお姉さんを發揮しています。

助産院Sunスタッフより

賑やかで、忙しくて楽しい年末年始だったのでしょうか。ご家族みんなお元気でしょうか。裕昇君は、家族のアイドルでありたかったのでしょうか、絶妙なタイミングで産まれてきましたね(笑)お姉ちゃん達も根気よく立ち会ってくれました。弟が産まれるのが楽しみだったんでしょうね。産まれた瞬間にお姉ちゃん達のリアクションが、びっくりとうれしいが混ざった複雑な笑顔だったのが感動でした♡大変だけど日々の育児に思い出が残る時です。ご家族みんなが笑顔で新元号に突入できることを願っています。(前田)

センター稼働状況

分娩数	49件	緊急帝王切開	9件
母体搬送	1件	NICU稼働率	71.5%
新生児搬送	2件	MFICU稼働率	98.9%

(平成31年1月)

「どんなおさができるかな?」



編集後記

「オニは〜そと! フクは〜うち!」皆さん、豆まきはされましたか? ←左のお飾りは、周産期センター4階ロビーの壁面に飾ってある毎年恒例の「ふくわらい」です。『どんなおさができるかな?』パーツを自由に貼りかえていろんなおさを作ってみてくださいね。 (C.K☆N.S☆Y.M☆K.H.)

